



真鶴テックラボ (真鶴町)



一言アドバイス

新しい取り組みを行いたいときこそ、地域の人々をつつなげることが、地域特性を活かすことが大切です。



真鶴テックラボ  
管理者 柴山 高幸さん

成功のコツ

- ・ 地域の様々な場所に同級生という仲間が存在
- ・ 都心から程よく離れた港町という地域の特徴を活かした企画設計
- ・ 最先端テクノロジーを身近に感じてもらおうなど地域の人たちとつながる工夫

## 最新テクノロジーを地域に提供して新しい人の流れを生む

■ **地域の賑わいを取り戻したい**  
真鶴町に出現したクリエイティブスペース、「真鶴テックラボ」。3Dプリンタなどのデジタル制作機器や coworkingスペース等を完備した施設です。この「真鶴テックラボ」を中心に、最先端テクノロジーに携わる企業や個人事業主だけでなく、地元住民や漁業関係者も参加した新たな「創作コミュニティ」が誕生しています。

運営者の柴山 高幸さんは、

10年ほど前に真鶴町に10ターソンしました。すると、母校の小学校は既になく、思い出のある商店街も当時の面影はなくなっていました。「自分が住んでいたころの賑わいを取り戻したい。観光協会や行政などには同級生もいる。仲間がいれば何かできるかもしれない」という柴山さんの想いから、真鶴テックラボは生まれました。

■ **地域の特性を活かした展開**

真鶴町は、都心から程よく離

れた港町。見方を変えると、「都心から程ほどの時間でアクセスができ、集中できる環境でクリエイティブな発想が促される場所」だといえます。ここに着目した柴山さんは、システムエンジニアとして企画に携わってきた経験を活かし、2014年に全国の町村で初めて、スタートアップウィークエンド(※)を開催しました。その中で、「アイデアをすぐに形にできる場所が欲しい」と考え、地元の空き家

を自分たちの手で改装し、設備を整え、真鶴テックラボをつくりました。

■ **テックラボから広がる人のつながり**

そんな真鶴テックラボに人や企業が集まる理由を尋ねると、「ここが、地球と人がつながることができるところだからです」とのこと。生活の中のちょっとした困りごとに新しいアイデアの種があるため、地域の方と親しく接することができる真鶴

テックラボは、創作にうつづくの場所だそうです。

「最先端機器を地域の方に親しんでもらえればと、地域のイベントで3Dプリンタやドローンを稼働したりしました。人だかりができて、いろんな話をしているうちに、気が付けば、気軽に立ち寄っていただける場所になりました」と話す柴山さん。

地域の困りごとについて企業、地元の若手、移住者や高齢者等と一緒に話し合うことから始まり、今では、テックラボの企業の方々と地域の人が、地元の酒屋で飲むようになってい

※週末3日間かけて開催する起業体験イベント。

